

令和 4 年産

気仙沼・南三陸 稲作情報 第5号

令和 4 年 6 月 21 日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター
 TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

今後の管理のポイント

- ・ 稲体の健全化を図るため、間断かん水を実施しましょう。なお、有効茎数が確保されたほ場では、中干しを実施しましょう。
- ・ 雑草の発生が多い場合は、中・後期剤による除草を行いましょう。
- ・ 梅雨入り後、曇雨天が多くなると予想されるため、いもち病の防除を徹底しましょう。

1 気象の概況

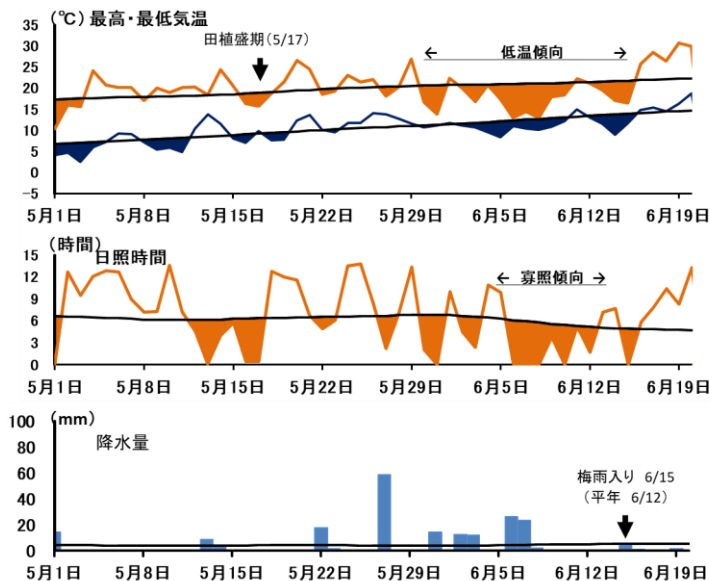


表 1 気象経過 (気仙沼アメダス)

	平均気温(°C)		日照時間(h)		降水量(mm)	
	本年値	平年差	本年値	平年比	本年値	平年比
5月 上旬	12.4	-0.2	97.0	154%	15.0	37%
5月 中旬	14.8	1.3	59.1	95%	11.5	28%
5月 下旬	15.7	0.4	78.2	109%	93.0	200%
6月 上旬	13.6	-2.7	41.5	64%	76.5	194%
6月 中旬	18.2	0.6	67.7	138%	7.0	13%

【5月以降の気象経過】

- ・ 気温は 6 月上旬は低温傾向で、それ以外は平年並みからやや高く推移した。
- ・ 日照時間は、6 月上旬は少なかったが、それ以外は平年並みから多くなった。
- ・ 降水量は 5 月下旬から 6 月上旬にかけては多く、それ以外は少なかった。

図 1 気象経過図 (気仙沼アメダス : 5 月 1 日 ~ 6 月 20 日)

2 水稻生育調査ほの生育概況

表 2 水稻生育調査結果 (6 月 20 日現在)

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	20.7	27.6	480.2	40.3
	前年比・差	-1	105%	72%	81%	+1.6
	平年比・差	-4	105%	85%	98%	+0.3
ひとめぼれ 南三陸町 (志津川)	本 年	5/11	19.2	31.8	403.2	40.4
	前年比・差	-2	105%	76%	91%	-1.4
	平年比・差	-2	107%	83%	96%	+0.3

注) 平年値は平成 29 年から令和 3 年までの 5 か年の平均値 (志津川は平成 30 年からの 4 か年平均)。

- ・ 管内の生育調査ほの茎数は平年並となっており、いずれも中干しを開始する時期に達しています。
 → 茎数が過剰に増加すると収量・品質の低下につながるため、目標茎数に達した場合は速やかに中干しを行いましょう。

3 今後の管理の留意点

【水管理】

- 水温の上昇に伴い土壌中の有機物の分解が進み、土壌中からガスが発生する場合があります。ガスの発生が多いと根に障害が発生し、養分吸収を阻害するため、一時的な落水や間断かん水、中干しを行い、土壌中に酸素を供給しましょう。

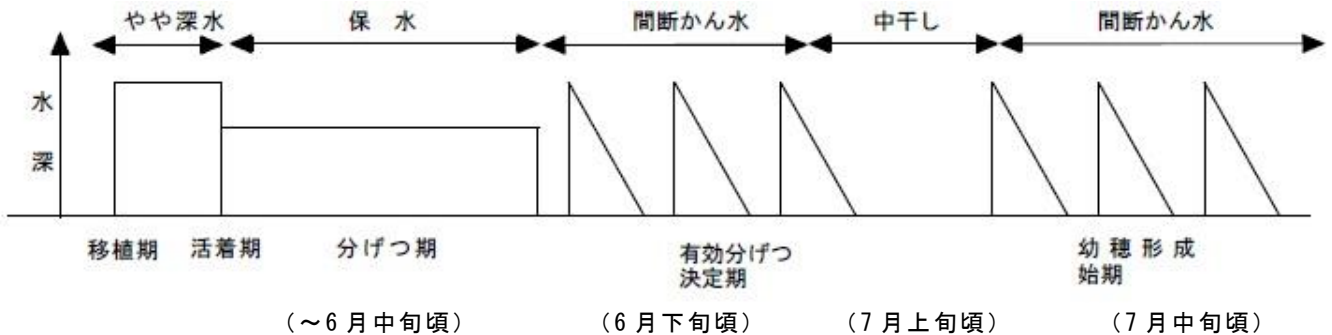


図2 出穂期までの水田水管理体系（宮城の稲作指導指針（基本編））

【中干し】

- 中干しは、根の活力の向上、無効分けつの発生抑制、作土層の硬化促進などの効果があります。有効茎数（表3）を確保したら、早めの実施しましょう。
- 中干しは、「田面に小さな亀裂が入り、軽く足跡がつく」程度とします。
→雑草の防除時期と重なる場合は、雑草防除を行ってから中干しを実施しましょう。

表3 品種別有効茎確保期（中干し開始時期）の目安（宮城の稲作指導指針（基本編）県栽培ごよみ）

品種名	時期	㎡当たり 茎数（本）	田植時の設定株数	
			50株/坪(15.2株/㎡) の場合 1株当たり本数	60株/坪(18.2株/㎡) の場合 1株当たり本数
ひとめぼれ	6月20日頃	310~360	20~24	17~20
ササニシキ	6月25日頃	460~500	30~33	25~27
まなむすめ	6月20日頃	460~500	30~33	25~27
みやこがねもち	6月30日頃	380~430	25~28	22~24

【雑草防除】

- 初中期一発剤を散布したほ場でも残草があれば、雑草の種類や葉齢、稲の葉齢を確認し、中・後期剤等で適期に防除しましょう※。
※雑草に対して効果の見込める葉齢や草丈を超えてしまった場合は、十分な防除効果が得られない可能性が高くなります。雑草がすでに大きくなっている場合は、比較的効果の高い茎葉散布剤や粒剤の落水散布も検討してください。
- ヒエやイヌホタルイ、シズイ等の雑草は、稲の出穂前に斑点米カメムシ類を水田に呼び寄せ、斑点米発生による落等につながります。雑草対策を徹底しましょう。
- 畦畔や農道、雑草地、休耕田等のイネ科雑草は、カメムシ類の主な増殖源となるので、計画的な草刈りを行い、カメムシ類の増殖を抑えましょう。

【病虫害防除】

① いもち病

- 箱施用剤による予防防除を行っていない場合は、水面施用剤（粒剤、パック剤）を速やかに散布しましょう。
- 箱施用剤等による予防防除を実施した場合でも、発病が見られたときは、速やかに茎葉散

布剤で防除してください。

- 葉いもちは、直接収量や品質に影響を及ぼす穂いもちの伝染源となります。予防防除が基本管理であり、発病が進展してからの防除では十分な効果が期待できないため、水田をこまめに見回り、早期発見と防除に努めましょう。
- 病害虫の発生予察情報や最新の葉いもち感染好適条件の出現状況は、県病害虫防除所ホームページで確認できます。URL (<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>)

② イネドロオイムシ

- 6月の気象が曇雨天で経過すると成虫の産卵期間が長引き、幼虫の加害期間も長くなります。今後の気象経過に注意し、発生が長引く場合は追加防除を実施しましょう。
- 殺虫剤を育苗箱処理した水田でイネドロオイムシの発生が多い場合は、薬剤抵抗性が発達している可能性がありますので、普及センター等にご相談ください。

○だて正夢の栽培管理

表4 だて正夢現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月20日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	21.0	36.5	464.1	42.7
	前年比・差	-3	100%	88%	72%	+2.1
	平年比・差	-3	106%	95%	115%	±0.0

注1) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値

- すでに中干しの目標莖数：350～400本/㎡を確保できています。幼穂形成期まで完了するよう速やかに中干しを行いましょ。

○金のいぶきの栽培管理

表5 金のいぶき現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月20日調査）

品 種 地区名		田植日	栽植密度 (株/㎡)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色値 (GM)
金のいぶき 気仙沼市 (本吉町)	本 年	5/11	19.4	29.7	483.1	41.9
	前年比・差	±0	102%	77%	90%	+3.0
	平年比・差	-	-	-	-	-

注) 金のいぶきは令和3年度から調査開始のため、平年値はなし

- 「金のいぶき」の目標収量（精玄米重510～540kg/10a）を達成するため、生育目安（表6）を参考にした管理を行いましょ。
→有効莖数確保に必要な中干し前の莖数は確保できているため、**速やかに中干しを行いましょ。**
- 「金のいぶき」は、いもち病に非常に弱い品種なので育苗箱施用剤を使用している場合でも、水面施用剤（パック剤・粒剤）や莖葉散布剤の体系処理を検討してください。
- 強すぎる中干しは避け、土に亀裂が入る前に間断灌水に移行してください。

表6 金のいぶきの生育量の目安（宮城県「普及に移す技術」第95号）

項目	幼穂形成期	減数分裂期	出穂期
	7月15日頃	7月25日頃	8月10日頃
草丈 (cm)	65～70	83～88	
莖数・穂数 (本/㎡)	570～620	490～540	460～510
葉色 (SPAD値)	33～35	30～32	31～33
主莖葉数 (葉)	11.0～11.4	12.0～12.4	12.9～13.3

○直はの栽培管理

表7 水稲直は現地栽培技術普及展示の生育調査結果（6月20日調査）

品 種 地区名		播種日	播種密度 (株/m ²)	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉色値 (GM)
ひとめぼれ	本 年	5/7	19.4	23.0	169.3	42.2
気仙沼市 (本吉町)	前年比・差	+1	90%	89%	27%	-0.9
	平年比・差	-5	94%	101%	52%	+3.5

注1) 播種方式は鉄コーティング湛水直は（点播）によるもの。

注2) 平年値は平成29年から令和3年までの5か年の平均値。

- 本年は6月上旬の低温によりやや茎数の増加が遅れているため、十分茎数を確保してから中干しを行いましょう（中干し開始の茎数の目安：310～360本/m²）。
- 鉄コーティング湛水直はは土壌表面に播種しているため、移植栽培と比較して倒伏しやすくなります。溝きりや中干しをしっかりと行い、倒伏を軽減しましょう。
- 今後発生してくる雑草・病害虫対策は、基本的に移植栽培と同様に実施します。
→ただし、直は栽培は移植栽培と比較して7～10日程度生育が遅くなるため、斑点米カメムシ類等の防除時期も生育にあわせるように注意しましょう。

○東北地方の1か月予報（6月18日～7月17日までの天候見通し）によると、予想される向こう1か月の天候は下記のとおりです。

期間中の気温は高い、降水量は平年並か多い、日照時間は平年並か少ない見込みですが、2週目（6/26～7/2）の気温は高い見込みです。

特に7月1日までは、平年に比べ曇りや雨の日が多くなる見込みです。

高温が見込まれるため、水分・塩分・休憩を十分にとり、熱中症を防ぎましょう。

（仙台管区气象台 令和4年6月16日発表）

（https://www.jma.go.jp/bosai/season/#area_type=offices&area_code=040000&term=1month）

○気象から見た栽培管理のポイント

→降雨や昼夜の温度差による結露により、いもち病（葉いもち）が発生しやすくなる時期です。

→育苗箱施用剤や水面施用剤（パック剤・粒剤）をまだ施用していない場合は、速やかに散布するとともに、すでに防除を行っているほ場も発生がみられる場合は追加防除の実施を検討してください。

4月1日～6月30日は「春の農業安全確認運動」の実施期間です。

スローガン「しめよう！シートベルト」

6月1日～8月31日は「令和4年度宮城県農薬危害防止運動」の実施期間です。

農薬を使用する前には、必ず使用可能な作物名・対象病害虫や雑草、収穫前日数等の登録情報をラベルやウェブサイト等で確認し、使用時期、使用方法、使用量を守って使用しましょう。

最新の農薬登録情報は、農林水産省のウェブサイト（下記）※で確認できます。

URL（<https://pesticide.maff.go.jp/>）

※「農薬登録情報提供システム」の更新に伴い、令和3年3月10日より農林水産消費安全技術センターのウェブサイトから移動しています。